

# 中野区教育委員会会議録

令和6年第5回定例会

令和6年2月2日

中野区教育委員会

令和6年第5回中野区教育委員会定例会

○日時

令和6年2月2日（金）

開会 午前 10時00分

閉会 午前 10時52分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○欠席委員

教育委員会委員 岡本 淳之

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 小田 史子

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 齊藤 光司

学務課長 佐藤 貴之

子ども教育施設課長 藤永 益次

育成活動推進課長 細野 修一

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○傍聴者数

6人

○議事日程

1 報告事項

(1) 事務局報告

①不登校児童・生徒支援の充実について（指導室）

②（仮称）キッズ・プラザ上鷺宮の整備について（子ども教育施設課、育成活動推進課）

## ○議事経過

午前 10 時 00 分開会

入野教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第 5 回定例会を開会いたします。

議事に入ります。本日の会議録署名委員は伊藤委員にお願いいたします。

本日の議事はお手元に配付の議事日程のとおりでございます。

なお、本日は事務局報告の 2 番目に関連いたしまして、育成活動推進課長の細野課長にご出席いただいておりますので、ご承知おきください。

それでは、日程に入ります。

### <教育長及び委員活動報告>

入野教育長

報告事項に入ります。

教育長及び委員活動報告について、事務局から報告する事項は特にございませんが、各委員から活動報告がございましたらお願いいたします。

村杉委員

連日、能登半島の地震の報道がされて、どれだけ現地の方々がつらい思いをされているのか、心が痛みますが、小児科学会でも、様々な支援がされています。ホームページ上で、避難所での生活や健康管理について、あとは急性ストレス障害への対応、これは日本精神医学会が、配布用のリーフレットなどを提示しています。神経発達症の子どもたちのオンラインの相談もされています。また、アレルギーの子どもたちのメールでの相談窓口などもできています。このようなツールが少しでも現地に届いて、役立てばいいと思いますが、この中で、中野区でも災害が起きたときに、事前に備えることのできるものがあれば、備えて準備しておくとういと思いました。情報提供です。

入野教育長

ありがとうございました。ほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは私のほうは、2 月 2 日に中野区の青少年補導連絡会の新年懇親会のほうに出席してまいりました。これは保護司、それから少年補導員、民生児童委員の方など、それぞれの立場の方が独自に、中野区独自の組織だと思うのですけれども、青少年非行対策のために自主的に組織した会でございまして、様々な活動をなさっていただいているところでご

ざいます。

私どもも出席いたしまして、今の子どもたちの状況と、それから今やっぱり隣に新宿区の課題も抱え、いろいろな問題もございますので、そういうことに対してお願いをすると同時に、またこちらに対してもご協力と、それから情報提供などのお願いをしてまいりました。

様々な会が、新年ということでお集まりになる機会が多くて、特に健全育成に関しましては、私は出席することにしておりますので、地域の方との連携が大変大きいなと思っておりますし、各学校もご協力いただいている方々ですので、いろんな形で連絡を取り合いながら、子どもたちのためにさらに活動ができるようになってくるといいなと思っております。

以上でございます。

ほかにもございますでしょうか。よろしいでしょうか。

発言がございませんので、委員活動報告は終了いたします。

#### <事務局報告>

入野教育長

続いて、事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「不登校児童・生徒支援の充実について」の報告をお願いいたします。

指導室長

「不登校児童・生徒支援の充実について」ご報告をさせていただきます。

まず、本区の不登校児童・生徒の状況を表にまとめてございます。この表から、不登校児童・生徒の数は、年々増加傾向であることが見て取れます。また、学校内外で相談・指導を受けられていない不登校児童・生徒の割合も年々増加傾向であることが課題であると考えております。

支援策といたしまして、中学生の学びの保障、居場所づくりと児童・生徒の多様な学びへの対応の取組が急務であると考えております。

3に不登校児童・生徒に対する支援の考え方をお示しさせていただきました。すべての児童・生徒が自分らしく学ぶための環境づくりに向けまして、図にありますように、子どもたちを中心に、すぐに相談できる環境や、多様な学びの場や機会を設けてまいりたいと考えております。

4に令和6年度、来年度新規、または拡充する事業をまとめましたので、1点ずつ報告をさせていただきますと思います。

まず1点目でございますが、区費のスクールカウンセラーの中学校区への配置を拡充してまいります。現在、東京都から派遣されているスクールカウンセラーが各小・中学校に原則週1日、また中野区のスクールカウンセラーが中学校区に週に半日、水曜日の午前中ですけれども配置されております。しかし、児童・生徒や保護者が相談したいときに相談できないような状況も見られるため、相談したいときに相談できる環境を整えたいと考え、区費のスクールカウンセラーの配置を拡充してまいります。

2点目でございます。こちらは、不登校相談窓口の設置でございます。教育センターの中に、不登校の児童・生徒や保護者が相談できる、そういった窓口を設置したいと考えています。学校のスクールカウンセラーや教育相談室などの相談先を選んでこれまでは相談をしておりましたけれども、子どもたち一人一人、様々な状況があるということです。どこに相談していいかというのを悩む保護者も多数いるということで、専用の相談窓口を設置したいと考えております。

3点目です。こちらは、教育相談室の夜間及び土曜日開室を拡充したいと考えています。これまで平日の午前10時から午後6時まで開室し、相談を受けてきましたけれども、保護者のライフスタイルの変容等から、土曜日や夜間の少し遅い時間に相談体制を構築したいと考えております。ぜひ多くの相談を受けられるように拡充していきたいと考えています。

4点目です。こちらは中学校における校内別室、校内教育支援センターと呼んでおりますけれども、こちらの支援員の配置を拡大していきたいと考えています。校内であっても別室であれば登校できる生徒が安心して登校し、自己存在感や充実感を感じられるような場所を区内の全中学校に設置はしているのですが、そこに支援員を、今年度3校でのモデル校というような形で、モデル実施してまいりました。こちらの3校の成果を、その下の①から③まででまとめてございますけれども、やはり支援員がいるということで、子どもたちも通いやすくなる。また環境の整備等もかなり工夫をしていただいて、支援の充実が図られているということがございますので、ぜひ来年度は9校、全校で配置をしたいと考えているものでございます。

続いて、3ページ目の5点目です。こちらは中学校に不登校対応の巡回教員を配置したいと考えています。こちらは新規の事業となりますが、中学校を教員が巡回することで、各学校と連携をしながら不登校生徒の支援や、また先ほど言いました校内の別室にいらっ

しやる支援員の方々と連携を図りながら、助言や情報提供などを行っていただき、不登校生徒への支援の充実、また学校全体での未然防止等にも力を発揮してもらえたらと考えているものです。こちらは東京都で新規にスタートする事業でございますので、本区でも申請をしまして、2名配置できるという状況になっておりますので、ぜひ効果的に活用していきたいと考えております。

6点目です。こちらは校内別室、チャレンジクラスと呼んでおりますけれども、これを中野中学校の中に新たに設置したいと考えております。「学びの多様化学校」、いわゆる不登校特例校の設置を令和7年度から検討するということで、これまでいろいろ準備等、検討等を進めてきておりました。

そういう中で、来年度から東京都が「学びの多様化学校」に代わる校内別室を設置して、チャレンジクラスというような名前をつけて、都内公立の中学校10校で新たに設置をしてくれるというお話がございましたので、本区においても、ぜひ中野中学校に設置をしたいと考えており、現在準備を進めているところでございます。ここでは、不登校生徒が安心して学校生活を送ることができるようなゆとりのある生活時程を実現しながら、正規の教員が子どもたち一人一人の実態に応じた授業や支援を行ってまいります。学習状況等にも合わせまして、個別の学習やグループ別の学習などを行うですとか、生徒の興味や関心に合わせた体験活動などを通じまして、生徒のチャレンジ意欲をぜひ育んでいきたいなと考えているところでございます。

詳細は4ページのところにお示しさせていただきました。仮称ということでございますけれどもN組という名前をつけて、1年生から3年生までそれぞれ一学級ずつ設置をしたいと考えております。開設は今年の4月からということで考えております。その下の1日の流れというのをごらんください。これはまだ現時点での案ではございますけれども、1時間目や6時間目をカットしまして、実質2時間目から5時間目までの時間に子どもたちが学習に取り組んだりということで、学校生活を送ってもらいたいと考えています。少しゆとりが生活時程の中でもございますので、先生方や、ここにも支援員の方をぜひ配置したいと考えておりますので、そういう方々、いろいろ話をしたりということで、子どもたちの支援に当たっていきたくて考えているものでございます。

続きまして、5ページ目をごらんください。7点目になりますけれども、こちらはバーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）事業の拡充ということでございます。本区では、今年度の9月からスタートしまして、着実にここにつながっている子どもたちも

増えている状況ではございます。下の表に9月から11月までではございますけれども、利用実績のほうまとめさせていただきました。不登校の子に加えまして、日本語指導が必要な子どもたちも徐々に利用が増えてきているような状況でございます。

今年度、これまでは教育支援室に通っている子どもたちをメインに対象としておりましたけれども、さらにこれを拡大しまして、より多くの児童・生徒に活用してもらいたいと考えておりますし、日本語指導が必要な子どもたちも、民間の語学学校等にもご協力いただきながら、学習の機会の充実につながってきており、効果を上げてきているという認識でありますので、来年度以降、スクールソーシャルワーカー等も関わっているような児童・生徒も、ぜひここにつなげていきたいと考えているものでございます。

最後8点目でございますが、学校に行きづらい子どもの保護者会の開催をさらに拡充していきたいと考えております。今年度も夏休みや、また今月7日に保護者会は開催を予定しておりますけれども、保護者からも多くの参加希望をいただいております。ぜひ来年度は年間3回開催を予定し、その中で様々な講演ですとか、上級学校の説明会などを実施し、情報提供に加え、保護者同士での交流の場をつくっていききたいと考えております。不安を抱えて悩んでいらっしゃる保護者の方々の支援も行っていけたらと考えているものでございます。

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

入野教育長

付け加えますけれども、6番のチャレンジクラス、中野中学校の件に関しましては、4ページに書いてありますように、他学区からも入学が可能ということになっておりますので、中野中学校だけではなくて、中野中学校のところへ籍を移すという形で、入学が可能という形になると考えております。

それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問ございますでしょうか。

伊藤委員

質問ということでもないのですが、今回このように大変多くの新しい取組をはじめとして、充実に向けた努力をしていただいて、本当にありがたいことだと心より感謝申し上げます。トータルに考えたときに、中野区が不登校支援の東京都や国全体の取組のリーダーになるような、先進的な取組が含まれていると思いますので、これらがばらばらではなくて、統合された包括的なものとして機能していくといいなと考えています。

その点から、もし1点お聞きするとしたら、これらを包括していく仕掛けとして、どうい

うことを考えているのか。これらの事業を統括するということ、どんな工夫の中で行おうとされているのかということは一つ最後にお聞きしたいなと思っています。

その上で個別のことになりますけれども、区費のスクールカウンセラーもすごく充実してくると、未然防止ということへの取組というのもできると思うのですね。今は何か困った方がご相談されたくても時間が足りないということですが、これからはさらにそうした部分に加えて、何か問題が、新たな不登校を生じない取組ですとか、よりよく子どもたちが学校で生活できるようにする取組ですとか、あと大人になってからも心の健康、大事ですので、そういった心の健康教育ですとか、様々な形で心理学の専門家が学校に手厚く配置されるというのは、いろいろな活動に向けて充実が期待される場所だと思いますので、ぜひ不登校の支援の充実ではありますが、全体に向けたそういう予防的な活動、啓発的な活動についても、スクールカウンセラーができるような工夫というのをしていただければいいなと考えました。

それから窓口も、やはりおっしゃっていただいたとおり、とりあえずどこに相談したらいいのだろうか、不登校なのだろうかという、そういった一番大事な休み始め、あるいは五月雨登校のところで、保護者の方が戸惑ったりされないように、あるいはお子さん自身にご相談できるように、こういった窓口というのができることはとても心強いと思いましたし、また土曜・夜間の相談というのは、受ける側にとっては本当に大変だと、スクールカウンセラーあるいは心理職の方にとっては大変ですが、ニーズはとてもあると思うので、ぜひ行っていただきたいなと思いました。

と申しますのも、やはり子どもさんが相談に行ける時間は放課後の時間帯に限られてしまうので、そうしますと、1日に4時ごろから6時ごろまで、あるいは4時から5時の1時間みたいな形になってしまいがちですので、ぜひ土曜日や夜間も効果があるので進めていただければなと思いました。校内別室も成果が上がっており、ありがたいなと思っています。こういったところにも、スクールカウンセラーが関われるように総合的に統括というか、包括的というか、取組が進むよう考えていただければと思いました。

あと、校内別室チャレンジクラス、これは本当に先進的な取組だと思います。私の理解では、一番大きな点は、単に別室だということではなくて、きちんとカリキュラムとして、通常のカリキュラムとは別のカリキュラムを組めることだと認識しています。ですので、ぜひ興味・関心に合わせてチャレンジ意欲を育むと書いてあるのですが、むしろ学校に今行きにくいお子さん、それぞれに悩みを抱えたり、心の成長課題を抱えたり、社会性などで不

安を持っていたらと思いますので、そういったお子さん方の課題、心や社会性の成長に関する課題についても成長できるような、そういった視点からのカリキュラムということも、先進的に考えていけるとよいのではないかと考えています。ですので、2点目としては、そういったことについて、どうお考えかということも伺えればと思っています。

あとバーチャル・ラーニング・プラットフォームも引き続きですし、何より保護者会は、本当に他区でも非常に参加希望が多く、また効果のあるものだなど実感しております。保護者の皆さんがお互いに元気になっていくことや、地域の中で子育てをしている仲間同士としてつながっていくことはすごく大きいので、ぜひ保護者会、そしてそこから相談につながることも多いので、こういった取組はお願いしたいなと思います。

昨日も、教育委員としてではございませんが、ある地域の小学生の先生方、保護者の方に不登校支援について研修会をさせていただきました。そこでも申し上げたのですが、やはりスクールカウンセラー、子育てやいろんな子どもへの対応のパーソナルトレーナーとして、不登校だからとか困ったからということではなく、心理という視点から、保護者の方と今どんな声かけがよいのか。どんな対応が子どもに合っているのかを一緒に考える相手としてぜひ活用していただきたいですし、実際そのようになっているとは思いますが、スクールカウンセラー、学級を訪問して、学級の中で先生がどんなことができるかを一緒に考えていく。教育の専門家である学校の先生と、心理の専門家である心理職、スクールカウンセラーと一緒に知恵を出し合うことで、これまで以上に精度の高い、効果の高い関わりというのが明らかになっていくということがたくさんあると思いますので、そうしたことも含めて、スクールカウンセラーの活用をお進めいただければと思っています。

ということで、長くなって恐縮でございますけれども、これらを統括するような仕組みとして、どのようなことをお考えかということと、あとN学級、チャレンジクラスにつきまして、そうしたカリキュラム、どうお考えかということを一度お聞かせいただけたらと思います。

以上でございます。

指導室長

まず1点目の包括的な支援につきましては、現在、教育支援室が不登校児童・生徒の対応を主にやっているようなところがございますけれども、SSWが今年度から10名という形になりまして、かなり学校との連携、それから各家庭へのアウトリーチ等を使った支援というのも充実してきて、各学校のほうからも、スクールソーシャルワーカーの活用は、

効果があると。また要請もかなりの数上がってきております。そういったＳＳＷですとか、各学校に来ている子どもたちの状況も把握している管理職や担任の先生方等とも連携をまず密にしていくという中で、教育センターを中心にして、巡回の教員ですとかスクールソーシャルワーカー、そこに指導主事が入りまして、それぞれの取組がきちんと横でもつながっていけるように、子どもたち一人一人の状況をしっかりと分析しながら、その子に合った支援、学校ができる支援やそれぞれの支援場所で行える支援、また関係の機関なども必要に応じては入っていただきながら、子どもたち一人一人に合った支援の方策というのをしっかりと相談できるような場を、最低でも月に１回ぐらいは教育センターに集まっていたいて実施していきたいと考えているところです。

巡回の教員や中野中学校に設置しますこのＮ組は、都の事業でもございますので、東京都のほうからも都の指導主事など来てくれることになっていますので、また心理の専門家等もそこに入ってもらって、ぜひ中野区全体で、不登校の児童・生徒をどのように支援していくかという制度設計なども、来年度は１年かけてしっかりとつくっていききたいなと考えているところでございます。

子どもたちや保護者にとっての選択肢を増やせるということでは、来年度から新たなスタートが切れると思うてはいるのですが、本当に子どもたち一人一人にどんな支援ができているのかというのは、やはり常にチェックをしたりですとか、子どもたちの状況の変化などを見ながら、よりその子に合った支援につないでいけるような、そういった場を持ちたいなと思っていますので、そういう意味で、巡回してくださる教員が２名いるというのは、私たちとしても非常に心強いなと思っているので、各学校に回ったときに、それぞれの学校が持っている情報など、しっかりと集約をしながら、一人一人の状況をしっかりと把握してもらって、どの学校にどのようなお子さんがいて、どういうところで支援を受けているのかということもまとめていただいたりしながら、進めていきたいと考えているところでございます。

また２点目の中野中学校に設置を予定しておりますＮ組でございますけれども、今伊藤委員がおっしゃってくださったように、カリキュラムをまずはしっかりとつくりたいと考えています。学ぶ意欲がある子どもたちにぜひ来てもらいたいなとは思っているのですが、そういう子どもたちの学習意欲を満たすということ。ただ、なかなか、これまで学習が抜けてしまっていて、どうしても学習に不安を抱えているようなお子さんも当然いるだろうとは思っていますので、２時間目から５時間目までは授業を行いますけれども、それ以外の時

間でも、子どもたちのそういう学習に対する不安などを少しでも和らげる取組ですとか、また中野中学校は特別支援教室の拠点校にもなっておりますので、そういう巡回をしている先生方にも、必要に応じてご協力をいただきながら、ソーシャルスキルトレーニング等が必要なお子さんなどがいれば、N組の中でも、放課後の時間などを使って、各学級の担任やそれ以外の先生方も関わるような時間をしっかりと設けることで、子どもたちが安心できるような学級、居場所という形で進めていけたらと思っています。どのようなお子さんが集まってきてくれるかということにもよるのですが、ぜひそのあたりも来年度、しっかりと方向性を見定めていきたいと思っています。

移動教室や遠足等につきましても、中野中学校の通常の学級のほうと一緒に参加できるようなお子さんがいれば、ぜひそういった中でも参加をしてもらいたいなと思っておりまし、ゆくゆくはN組に通ってきている子どもたちの意見も聞き取りながら、N組の子たちで活動できるような時間ですとか、N組の中で行う宿泊行事といったようなものも、いずれはつくっていききたいなと思っていますので、こういうのも先生方の意見というよりは、やはり実際通ってきている子どもたちの意見を大事にしながら、ほかの学級ではなかなかできないような体験活動を行えたりできるといいなとは思っています。ぜひそのあたりも来年度しっかりと力を入れてカリキュラム等、常に見直しを図りながら、よりよいものにしていけたらと考えているところでございます。

#### 伊藤委員

最初のご質問につきましては、丁寧に答えていただきましてありがとうございます。これらの事業をばらばらでなく、総合的に効果を及ぼすように、情報交換の会を月に1回教育センターのほうでということですか、巡回教員の方に区全体の動向を常にリアルに把握していただくなど、いろいろ工夫をお考えいただけているということで、大変ありがたく存じます。

やはりどの事業もそうだと思うのですが、制度ができますと、制度をつくること自体も大変ですけど、そこで始まりましたら、やはり質と言うのでしょうか。そこで何をするかという細かい部分が必ず求められてくると思いますので、そういった月に1回の会合なども、どういう形でやっていくのか。当然3人のスクールカウンセラーが関わるようなことも考えられますので、都費、区費それから区費で長くいる人、それらスクールカウンセラーの連携の仕方なども含めて、本当に制度設計ということがすぐに重要になってくると思いますので、中身の制度設定についてもお考えいただけると、目配りしていただけると

いいなと思いました。1人の子どもについての包括的な支援という意味でのソーシャルワーカーの生活支援も含めたトータルな支援、保護者支援も含めてということと、中野区全体での統括的な支援、包括的な支援ということと両方並行して同じことになっていくと思いますので、ぜひ引き続き、細かい制度設計の部分もお考えいただければと思いました。

それから2点目でございますけれども、私も具体的なことがあるわけではないですが、例えば心の成長と社会性の成長に関わる目安となるものは幾つかあると思うのですが、例えばその一つとして、村杉先生のご専門かもしれませんが、WHOなどもライフスキルという形で意思を決定していくとか、自分の健康を守りながら、人と協働して生きていくためのスキルを掲げておりますけれど、例えばそういうことを積極的に学べるような時間ですとか、あるいは各教科の中で、各教科を教えてください先生がいらっしゃるわけですが、もともと教育はそういうものだと考えますけれども、理科なら理科、美術なら美術、そういった中で自分のことを考えたり、人のことを考えたり、また社会のことを考えたりというような中で、ライフスキルや人との関わりについても、自信が持てるような方向性を目指すという、積極的にそれに重点を置いてやっていくということも、通常のカリキュラムの縛りが無い分、可能かなと期待しております。

そのような意味で、こちらの学級に関わる先生方のコンセンサスも重要になってくると思いますし、どういった点でカリキュラムを組んでいくのかというところをいま一度お考えいただいて、すぐに始まるものですので、ぜひ具体的に先生方で共有できるような形でまとめていただけるとありがたいなと思いました。

以上です。

入野教育長

話し合いの中では、新しく入ってくる、巡回指導員も、2人が別々の学校に所属することになりますので、そういう中の職種と言うのでしょうか。行方でのどう、そこを交流させるとか、より効果的にやるかというところから、職種ごとの制度設計はしていると思いますし、今までも、先ほど室長がお話をしましたように、教育相談室、区費の相談員、そして心の教室相談員もいますし、代表者部会のようないろいろな方々の連携ということでやられてきている部会もあります。それをさらにどう拡大していくかということについても、その次の段階で出てくるかなと思います。

中野中学校に今度できるチャレンジクラスについては、まず初めにどのぐらいの人数が集まるかによっても、大分カリキュラムも違ってくるのかなと思いますけれど、当初は多

分そんなにいきなりたくさんの人数が集まるわけではないと思いますので、その中で一人一人のことをどう捉えるかということもありますし、今度人数が集まると、どういうカリキュラムとしてやっていけばいいのかという問題も出てくると思いますので、常に進化しながら取り組んでいってくれるものと思っております。

ご意見参考にしてやっていければなと思っております。

伊藤委員

最後に、例えば都費のスクールカウンセラーは4月から配置になります。入れ替わりもあると思います。中野区全体がこのような不登校支援をしているというグランドデザインは、他区から異動してくるとわかりません。それは先生方も同じだと思いますし、保護者の方もそうかもしれません。そういう意味では、こういったグランドデザインになっているということを、都のスクールカウンセラーや、もちろん学校現場の先生方、保護者、地域の皆様にも積極的にお伝えいただけるような、そういった仕組みというものも、必ずお考えいただけたらと思います。

以上です。

指導室長

先ほどご紹介させていただきました様々な取組を、今リーフレットのような形でまとめて、教員のほうにも配布をして、いろいろ子どもたちの状況を見ながら、不安だったり、なかなか学校に足が向かないようなお子さんがいた場合に、そういうのをもとにしまして、一緒にその子への支援を考えていただくですとか、先生方もどこにどういう場所があって、どんな支援を行っているかというのが一目でわかるような形にはしていくつもりでございますので、今、伊藤委員がおっしゃってくださったような形で、新しく来た方々も、中野区の様々な取組をしっかりと理解してもらえるように、働きかけていきたいと考えてございます。

平本委員

ご説明ありがとうございました。本当に軸となるのは、子どもたちの学びを止めないということかと思っておりますので、様々な選択肢をご用意いただけることは大変ありがたく、重要だと思います。

中野区としての仕組みをきちんとしていただきたいということは、もう伊藤委員と同じ意見ですので、私のほうはもう少し一つ一つの細かいことについての意見と質問をさせていただければなと思います。

まず1点、中学校における校内別室については、非常に効果が出ていると、私もこの表を見て思いました。参加生徒数の推移と、あと教室復帰数の変化のところを見ていきますと、人数だけではなくて、恐らく通い始めてから比較的短い期間、1カ月や2カ月などの期間で効果が出て、復帰できたという事例も含まれるのかなと思いますので、数だけではなくて、そうしたどれぐらいの期間で戻れたのか。あるいは早くつながったほうがやはり戻れたかと。そういった子どもたち、それぞれのことについても分析していただいて、ぜひ保護者の皆さんにも共有していただけるとよいのではないかなと思いました。

あと、もう1点ですけれども、3ページのチャレンジクラスのところですが、とても先進的なよい取組になるのではないかなと思いますけれども、保護者としては評価や成績のところももちろん気になってくるころかなとは思いますが、子どもたちがこうしたカリキュラムを通じて、取り組んできた勉強ですね。学習がきちんと評価されて、そして自己肯定感を育める形で、また次の高校・大学のほうにつながっていきけるような評価のこと、成績のこと、見通しのこともぜひ決まり次第、保護者の皆さんにも丁寧にご説明していただくとよろしいのではないかなと思いました。

最後、学校に行きづらい子どもの保護者会の開催の点ですけれども、これも大変ありがたい取組だと思います。やはり保護者も、子どもたちと同じように不安と、あと孤独を抱えやすい立場かと思えるので、今後も定期的に実施していただきたいということと、意見としては、開催するタイミングのことなのだと思いますけれども、やはり年度が変わるタイミングであったり、あるいは進級・進学などの環境が大きく変化するタイミングで、不登校が顕在化しがちであるし、逆に回復する一つのきっかけにもなる重要なタイミングかと思えるので、そういった時期に交流できるような、あと情報提供できるような開催のタイミングを考えていただきたいということと。

もう1点ですが、不登校の子どもたちを抱えている保護者同士で交流することももちろん大事なのですが、恐らく保護者の立場としては、子どもたちが心の回復において、こういうことが役に立ったとか、こういうことがきっかけになって回復できた。また学校に戻れたというような経験をお持ちの、今まさに悩んでいる保護者だけではない保護者のご意見をぜひ聞きたいというような意見もあるかと思えるので、今後の開催の中で、そういった機会を設けていただくことも、ぜひご検討いただければと思います。

最後1点ご質問なのですが、この保護者会なのですが、対象は区立小学校に通うお子さんの保護者だけになるのか。あるいは幼稚園や高校、私立・国立のお子さんを抱えて

いらっしゃる保護者も参加の対象になるのでしょうか。

指導室長

参加していただくのは、当然幼稚園の保護者や、現在私立や国立等に通っている保護者も来ていただければと思っています。そのあたり、周知をやっぱりしっかりしていかないと、なかなか、知らなかったという保護者もいらっしゃると思いますので、ぜひ、教育センターのホームページも新しくなりましたので、そういう中でも情報提供をしっかりしていきたいなと思いますし、学校のみならず、区内に広く周知、どうやっていくかというのも検討はしていきたいと思います。

村杉委員

丁寧なご説明ありがとうございました。お2人の意見と重なりますが、意見です。スクールカウンセラーの配置の拡充ですとか、相談窓口の設置など、子どもたちや保護者の方が相談できる機会が増えることは大変よいことだと思います。また、中野中学校にできる先進的なチャレンジクラス、これもうまく進んでいくといいと思いますので、また成果を伺いたいと思います。

最後の保護者会のことですが、やはり学校に行けていない生徒の保護者の方も、どうしてもよいかわからず、大変つらい思いをされていらっしゃると思います。私の外来でも、涙される方もいらっしゃいますし、そのような方たちに情報を提供したり、保護者同士の交流ということで、先ほど平本委員もおっしゃいましたが、タイミングですとか、回数を増やして、より保護者の方に寄り添っていければと思います。

以上です。

入野教育長

ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

なければ、本報告は終了いたします。

次に、事務局報告の2番目「（仮称）キッズ・プラザ上鷺宮の整備について」の報告をお願いいたします。

育成活動推進課長

それでは、私より「（仮称）キッズ・プラザ上鷺宮の整備について」報告させていただきます。

上鷺宮小学校内へのキッズ・プラザの整備について、当初学校の敷地を分割して建築を進めていくことを検討しておりました。そういったことが不可能であるということが判明

し、改めて整備手法、整備内容、スケジュールについて見直しましたので、報告をさせていただきます。

1、整備手法についてでございます。新たな整備手法といたしましては、区が直接学校校舎の増築工事として整備を進めることといたします。建築場所につきましては、学校敷地の東側の現農園のところとすることで、本年度は南側の拡張用地への農園の移設工事については完了してございます。そして増築する校舎でございますが、こちらについては、延べ床面積の2分の1以上を学校用途として使用していくことを検討しております。

2、施設の内容でございます。(1)として、施設規模は重量鉄骨2階建で考えております。

(2)、施設の諸室案ということで、①、学校の施設としては、多目的室や特別教室等を考えております。②として、キッズ・プラザ施設としては、学童クラブ室、活動室、事務室等を考えてございます。

そして設置場所でございますが、別紙1をつけさせていただいたので、改めてごらんいただければと存じます。こちらの設置場所でございますが、向かって右側が北側になりますが、校舎があつて、その上のほうに青い囲みであつたキッズ・プラザ用地と書いたところ、ここは現在、農園でございます。この農園の場所にキッズ・プラザ棟、学校の増築工事として建築を予定しているということです。現在の農園はということで、この右側に赤く囲ったところ、こちらのほうに既に移してございます。なお、敷地の分割でございますが、青いところを中心として分割して、建築することを当初検討しておりましたが、そういったことがございますと、今後の校舎の増改築等にも影響が生じてしまうので、分割しないということを考えました。またそういった校舎の増築ということにもなるので、学校用途にも活用し、学校の教室の確保等の要望にも応えていけるものかなと考えてございます。

3、今後のスケジュールでございます。令和6年度から7年度にかけまして、(仮称)キッズ・プラザ上鷲宮基本計画・基本設計・実施設計を進めてまいります。令和8年度に工事を着工し、令和10年度の開設を目指して進めてまいります。

報告は以上でございます。

入野教育長

ただいまの報告につきまして、ご質問・ご発言がありましたらお願いいたします。

伊藤委員

丁寧なご説明をありがとうございます。2点ご質問させていただければと思います。

一つは、農園のほうですけれども、大分距離のある移動だったかと思いますので、いろい

ろお気遣いいただいたのではと思いますが、現時点で何か変化ですとか、課題があるのか、ないのか。場所が変わると、いろいろなことが生じてくると。日当たりのことですかいろいろあると思うのですが、また子どもや先生方にとっての使いやすさなども変わってくると思うのですが、そのあたりについて、もしご存じのことがあれば、教えていただければと思います。

2点目は、私の理解が正しいかどうかなのですけれども、分割せずに、学校と一体的にということですので、わかりやすく言ってしまえば、校舎とつながるような形で建築すること、あるいはキッズ・プラザの中を、先ほどおっしゃっていましたが、キッズ・プラザの用地の中をさらに分割するはずだったけれども、そうではなくて、この水色のところ全体に学校の供用部分も含めて、一体的にここに独立的な建物を建てるということなのか。私の理解が追いつかなかったので、教えていただければと思いました。

以上です。

育成活動推進課長

最初の農園のほうでございますが、現在の農園も今残った形になっていて、かつ新たなほうもということなので、具体的に今これが問題ということは、今のところは把握してございません。

二つ目の分割に関してのところなのですけれども、こちらは建築予定の建物は、学校校舎との接続も考えているので、使い勝手を考慮した設計を今後進めていきたいと考えています。

子ども教育施設課長

今、課長が発言しましたが、学校側としまして、現在上鷺宮小学校については、児童の方々が増加傾向であります。予備教室が他校と比べてちょっと不足ぎみというところで、直ちに学校授業に支障があるというものではないですけれども、増築棟として、キッズ・プラザと並行して教室も増加するということは、予備教室の増加、少人数教室や学校の教育環境の確保ということにも資すると思いますので、教育側としてもメリットがあると考えてございます。

村杉委員

ご報告ありがとうございます。意見ですが、設計もこれからだと思いますが、また医療的ケアの必要な子どもたちや車椅子の子どもたちの利用も含めて、子どもたちが安全でよい学習の環境ができるようによろしくお願いいたします。

育成活動推進課長

現在新しい校舎に建築しているキッズ・プラザについては、もちろんバリアフリー化を進めてございますし、だれでもトイレといった形でも設置をしているところでございます。こちらの新しい設備についても、そういった方向性で、今後も考慮した設計を進めていこうと考えております。

ご意見ありがとうございます。

入野教育長

医療的ケアのお子さんは、今はまだキッズ・プラザや学童にはいらっしゃらないのですが、学校とともにキッズ・プラザや学童についても、そういう体制はつくられているという状況でいいのですね。

育成活動推進課長

令和6年度からの医療的ケアが必要なお子さんの学童の受け入れについては、今も用意を進めているところでございます。

平本委員

ご説明ありがとうございました。このような形で、校舎との接続もあり得るということになると、キッズ・プラザについて、学校の設備という形でよりよい使い方というか、工夫ができる可能性が出てくるのではないかなと思います。

もし、ほかにも中野区内で、このキッズ・プラザのような形で、校舎とキッズ・プラザという形で既に整備されて使われている。あるいはそういう予定のところがあれば、参考までに教えていただけますでしょうか。

育成活動推進課長

キッズ・プラザでございますが、設立当初は平成20年以降なのですけれども、学校校舎の一部を使ってというのがスタートでした。その後、学校の中でスペースのあるところにつくっていったというのを続けてきてまいりまして、一旦すぐ設置できるところは設置をもう既に済ませたとしました。その上で、さらに無理なところについては、校舎改築とともにやっていくということで、進めているところでございます。

なので、学校との接続ということでいきますと、みんな何らかの使い勝手の工夫はしているところなのですが、昇降口に入ってすぐのところにキッズ・プラザがあるところもあったり、別棟というか、教室への動線とは離れたところですが、学校の会議室の下にあったりとか、様々な形ではありますが、それぞれ工夫した運営を進めていきたいと思っています。あり

がとうございます。

入野教育長

ほかにご発言ありますか。よろしいでしょうか。

なければ、本報告は終了いたします。

それでは最後に、事務局から次回開催についてご報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますが、2月9日午前10時から、区役所5階、教育委員会室で開催する予定でございます。

以上でございます。

入野教育長

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第5回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午前10時52分閉会